

# 乳房検査を受けられる方へ

## マンモグラフィ（乳房X線撮影）とは

乳房のX線撮影のことを、マンモグラフィと呼んでいます。マンモグラフィは、胸部X線検査などと原理はまったく同じです。しかし、乳房は全体が柔らかい組織でできているため、良いX線写真を撮るためには、専用のX線装置やフィルムを使う必要があります。マンモグラフィは、触診では発見が困難な、小さながんを描出することもできます。また、今回撮った写真を以前のものと比較することによって乳房組織の微妙な変化がわかります。

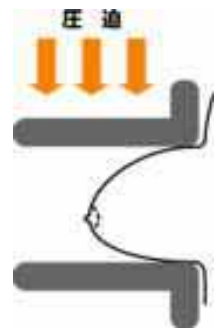


## 撮影は次のように行われます

撮影は、上半身は裸になっていただき乳房を片方ずつ、フィルムを入れた台と透明なプラスチックの板で、はさんで撮影します。（圧迫といいます）人間ドックや健診の場合は、斜めからの1方向撮影（左右で計2枚）を行います。所要時間は約10分～15分です。

その他精密検査などは、上下と斜めの2方向撮影（左右で計4枚）を基本とし、また、追加撮影を行うこともあります。所要時間は約20分～30分です。

マンモグラフィ用の専用装置は、1台しかありませんので、患者さんの混み具合によっては、お待ちいただくこともございますが、ご了承ください。



## 圧迫について

マンモグラフィでは、乳房をはさんで平らに圧迫して撮影します。これは、X線ができる限り正確な像をつくれるようにするためです。乳房は人により厚みも大きさも違いますので良い写真を撮るためには乳房をなるべく均等に圧迫することが重要です。また、圧迫することにより、被ばく線量が少なくなり、動きによるボケも防止できます。圧迫の際に痛みを伴うことがありますが、痛みの感じ方は人によって違います。リラックスすることによって痛みは減少することもあります。良いマンモグラフィを得るためには、圧迫はどうしても必要なことですので、ほんの少しの間がんばってください。

## 放射線被ばくについて

X線検査ですので放射線被ばくはありますが、乳房だけの部分的なもので、骨髄などへの影響はなく、白血病などの発生はありません。1回の撮影で乳房が受ける（吸収する）放射線の量は、東京からニューヨークへ飛行機で行くときに浴びる自然放射線（宇宙線）の量のほぼ半分です。したがって、マンモグラフィ撮影に伴う危険はほとんどないか、あっても極めて小さいと考えられています。

## 乳房撮影とホルモンの関係

乳房は、排卵後から月経が始まる頃までホルモンによって影響を受け、乳房が硬くなったり、痛みを感じたりします。この期間でも、検査には支障ありません。しかし、生理が終わって1週間ぐらいの時期に検査を受けると、圧迫による痛みは緩和されます。

## 自己検診をしましょう

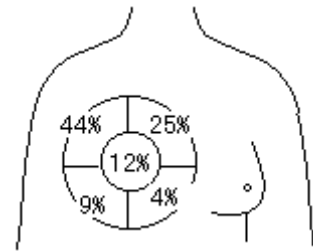
マンモグラフィとは直接関係ありませんが、乳癌の早期発見にはとても大切なことです！

乳房の病気には自分で見つけることができるものもあります。

毎月生理が終わって3～4日後、閉経後の人は月に一度、日を決めて乳房をチェックしましょう。

- ・ 乳房の中にしこりはありますか？
- ・ 乳房や乳頭が変形していませんか？
- ・ 乳頭からの分泌物はありませんか？

右図のように乳がんは乳房の外側上方にできることが多いので、乳房の突出している部分だけではなく、わきの下など広い範囲にわたって、しこりがないか調べます。



この他にも、疑問に思うこと、聞きたいことがありましたら、気軽に担当の放射線技師にお尋ね下さい。